

科学研究費助成事業（国際情報発信強化） 中間評価

| | | | |
|--|----------|--------|------------------------------|
| 課題番号 | 17HP2001 | 事業期間 | 平成29(2017)年度～ 令和3(2021)年度 |
| 取組の名称 | | 団体名称 | 代表者名 (職名・氏名) |
| オープンアクセス化を果たしたPlant Production Science 誌の更なる国際情報発信展開 | | 日本作物学会 | 会長・白岩 立彦 |
| 学術刊行物の名称 | | | (略称) |
| Plant Production Science | | | PPS |

【令和元(2019)年度 中間評価結果】

| 評価 | 評価基準 |
|--|--|
| A+ | 当初計画を上回っており、かつ改善した評価指標による目標達成が見込まれる。 |
| A | 当初計画が達成されつつあり、今後の目標達成が見込まれる。 |
| ○ A- | 当初計画より一部遅れは見られるが、概ね今後の目標達成が見込まれる。 |
| B | 今後の目標達成の見込みはあるが、経費の使用に問題があるため、経費の減額が適当である。 |
| C | 今後の目標達成が見込まれないため、取組の中止が適当である。 |
| (評価意見) | |
| <p>応募段階で設定した目標値の達成に向けて多様かつ効果的な取組を行い、目標に近いインパクトファクターの向上という成果がでている。一方、海外からの投稿数は増加したが、採択率の上昇といった目標は達成できなかった。これは目標設定が「採択率の上昇」である事に起因し、投稿数の増加を認知度上昇の指標と見るべきである。全体を通じて、取組と効果は高く評価できる。今後の取組や目標設定にはいくつか改善点を指摘したい。インパクトファクターの上昇は単なる投稿数の増加とは相関せず、なんらかの被引用回数を上げる方策が必要となる。また論文の質の向上こそが最大の目標であると思われるが、必ずしも（特に短期的には）質の向上とインパクトファクターの向上は連動しない。そのような中で、インパクトファクターの向上を目指す目標は重要であるが、一方では質の向上をどのように達成するかという本質的かつ具体的な取組が必要である。また、オルトメトリクスに着目する点は評価できるが、オルトメトリクスは編集側の努力で改善できる指標である。「著者に自己分析させる」という取組は他人任せであり、もう少しオルトメトリクスの改善に向けた編集側の具体的な取組が必要だと考える。</p> | |